

## 会議の概要（議事録）

|                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                      |     |  |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|-----|--|
| 会 議 の 名 称            | (番号)<br>1-49                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 墨田区基本構想審議会 第1部会（第4回） |     |  |
| 開 催 日 時              | 令和6年10月28日（月） 18：30から20：20まで                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                      |     |  |
| 開 催 場 所              | 墨田区議会第2委員会室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                      |     |  |
| 出 席 者 数              | 【委員】加藤久和（部会長）、相澤純一、阿部貴明、老田勝、井上佳洋、<br>島田泰子、佐久間之、森山育子（計8名）<br>【事務局】岩佐企画経営室長、楠政策担当課長、政策担当主査（原）                                                                                                                                                                                                                                                   |                      |     |  |
| 会 議 の 公 開<br>（ 傍 聴 ） | 公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる)<br>非公開(傍聴できない)                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 傍聴者数                 | 14人 |  |
| 議 題                  | ・ 前回の振り返り<br>・ 観光、シティプロモーションに関すること                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                      |     |  |
| 配 付 資 料              | 1. 次第<br>2. 文化芸術・スポーツ分野における未来予想図（案）<br>3. 基本構想検討シート<br>4. 墨田区シティプロモーション戦略プラン コンセプト BOOK<br>5. 墨田区シティプロモーション戦略プラン（抜粋）<br>6. 委員アンケート（抜粋）                                                                                                                                                                                                        |                      |     |  |
| 会 議 概 要              | 1 事務局からの伝達事項<br>事務局より本日のテーマについて説明を行った。<br><br>2 審議<br>（1）前回の振り返りについて<br>事務局より資料1について、説明を行った。<br><br>（加藤部会長）<br>前回の振り返りとして未来予想図、文化芸術、スポーツ分野についてのまとめを事務局に説明をいただいた。何か今の説明についてご意見をお願いしたい。最初に前回資料を提出いただいたが、当日ご欠席されていた佐久間委員の方で何か付け加えるようなことがあればお話しいただきたい。<br><br>（佐久間委員）<br>最後の「心をつなげてにぎわいをつくる」の部分、地域のにぎわいをつくりますと締めているところで、確かに人々をつなげて地域のにぎわいも作られると思う |                      |     |  |

が、文化芸術によって人と人とのつながりを繋げて、そのつながりを深めるということにも繋がる。「深める」とか、何かそういう言葉もあつたらいかがか。地域力を墨田区は謳っているので、「地域の活力をもたらすにぎわいをつくります」とか、そういう言葉も良いのかと感じた。

(加藤部会長)

事務局でもご検討いただきたい。

他の委員の皆様方で何かあれば挙手を願いたい。

(老田委員)

2点少し気になった。

最初の「郷土への愛着と誇りが生まれる」という部分、どういう流れでその郷土愛につながるのかというところが、今ひとつ実はピンと来なかった部分があった。

それともう1つが、「すみだらしさが息づく伝統・文化を…」という部分、すみだらしさの話をしているので、すみだらしさという言葉を使って大丈夫かということを感じた。

(事務局)

多様な魅力、伝統・文化がある中で、何かを特出しして表現することが難しいと考えるところで、現基本構想においても「すみだらしさの息づくまちをつくる」という表現で、基本目標を掲げているようなところもあるため、こうした表現でまとめたところではある。

すみだらしさをまとめていく基本構想の中で、すみだらしさという言葉を使うのはいかがかという話については、確かにご意見の通りかと思うので、もう一度ちょっとひねりたいと思うが、みなさんからご意見もいただけると大変ありがたい。

(森山委員)

第2部会、第3部会の議事録を拝見した中にも、すみだらしさって何みたいな表現が確かあったかと思う。今さらすみだらしさって何っていうことに時間を費やすことは良くないと思うが、多分人によってすみだらしさって全然違うんだらうなという中で、私自身、観光協会としてもすみだらしさって何というところに、実は今ものすごくクエスチョンがついている。

なので、あまりスルーをしても良くないという思いがある。

(事務局)

前回の部会で、森山委員から、「江戸から」と「江戸以前」というような話があった。すみだらしさというところでは、行政的なところで言うと「人と人とのつながり」を一つの軸に置いている。それと江戸からつながってきているような文化が折り合わさっていくところにすみだらしさというものが込められているのではないかと考えている。

一方で、老田委員からもこれまでお話いただいたように、ベッドタウン化してきて、まちの成り立ちが変わってきている中で、これから10年先を見据えたときに、

10 年先の未来像だけでなく 20 年先 30 年先を意識したときに、何をすみだらしさとして表現をしていくべきなのかというのは悩ましいと思っている。

（加藤部会長）

議事的な問題で、多分全部やった後にすみだらしさが出てくるわけで、最初から老田委員がおっしゃるように、先に定義してからまた定義し直すような形になってしまうので、これはどちらかというと今回の分野だけでなく、全体で入れるのか入れないのかという気がする。改めて検討いただきたい。

（事務局）

検討させていただく。

是非皆さんの方から私はすみだらしさってこう思うというところなんかもご意見をいただけると大変ありがたい。これまでも色々いただいているので、そういったものからも整理していきたい。

（阿部委員）

若干関連して、生涯スポーツのところについては、あまり個別具体的に何って言わなくても、イメージが付きやすいと思うが、ここに書かれているものについては、何をもちてすみだらしい文化なのか、何をもちて芸術なのか、何にも書いてないのがやや気になる。確かに特定の神社の名前とか突然出てくる必要はないが、例えばこの前も出た相撲とか、花街とか、あるいは扱いがやや難しいかもしれないが、土着で地域の賑わいを作り出しているお祭りとか。何も書かないと、これをそのまま他の区に持っていったら台東区らしさ、北区らしさ、と変えるとそっちでも同じことになるので、本当に墨田区らしい例示、他にはない例示があった方がよい。

例えば、相撲と書いてもそこら中に相撲部屋があるわけじゃないし、もう少し具体性のある書きぶりがあった方がいいのではないかなと思う。

（事務局）

本日のテーマが、観光振興とシティプロモーションとなっている。具体的にご提案のあった相撲や花街などについて、どちらで扱っていくべきかというのも、少し悩んでいた部分がある。文化という切り口の中で見るとすべきものにするのか、シティプロモーションや観光というような観点から、そういったものが語られるべきものであるのかということについて、本日の議論を踏まえた上で、今回まとめた、文化芸術スポーツの未来予想図を見直す必要が出てくるのかなと思う。

（佐久間委員）

先程阿部委員がおっしゃった例示の部分は、世界的著名人としての葛飾北斎がある。今、語り継がれているのは、1 人の天才の才能だけでなく、そこで生まれ育ってきた地域の風土とか、そういう人のつながりがあればこそというものもあると思うので、そのところは強く言えるのではないかな。

外国からいっぱい北斎を見に行きたいと言って、江戸東京博物館は休館していても、北斎美術館だけには絶対来ると感じるのかなので、そういう意味では世界に誇れ

る内容だと思う。

（阿部委員）

生涯スポーツはおそらく、区民の方中心で交流人口の皆さんや訪れてくる方々というイメージではないと思うが、文化に関しては、おそらく観光資源化する大事なテーマなので、文化は文化でちゃんとまとめておいて、それらが観光資源として成り立つかどうか、というふうに観光の方なりシティプロモーションの方で再度扱うということにしてはどうか。北斎もちろん、墨田区に明確に特化している特徴のあるものについては、もう少し具体性があった方が良いと思う。

（加藤部会長）

そこら辺は事務局で少しご検討願いたい。

これまで議論してきた三つの分野をまとめる際に、また改めて議論の場を次回設けたいと思うので、その際全体を見て、改めてご意見等をいただきたい。

それでは、次の議論に移らせていただく。

本日のテーマは観光とシティプロモーションである。前回同様、議論をしっかりと集約させていくため、事務局の方で、次第に記載の通り2つのテーマに分けていただいた。それぞれのテーマで30分を目安にご議論いただき、最後に本日出た意見について事務局にまとめていただく。

議論に当たっては、前回と同じように最初に一周皆さんからご意見をいただきたいというふうに考えている。一つ目の観光振興については、森山委員から時計回りに、シティプロモーションについては、相澤委員から反時計回りでご意見をいただきたい。

それでは、議論を始めるにあたり、それぞれのテーマにおける議論の考え方と資料の基本構想検討シートについて事務局からご説明を願う。

事務局より資料2、3及び4について説明を行った。

（加藤部会長）

今日は観光とシティプロモーションがテーマということだが、このシティプロモーションについてはもう少し高いところに定義される、あるいは基本構想に近いものというイメージがあるが、そういったことも踏まえながら、ご議論いただければありがたい。

まずは観光の方から、オーバーツーリズム等も含めていろいろお話し願いたい。

（森山委員）

先程もお話があったとおり、すみだらしさという話をとったときに、今墨田区の歴史や文化、自然を含めて、すみだの観光資源ってすごくたくさんある。これは第

1 回目のときにも皆さんが仰っていたようにたくさんあるけれど、全部がボヤっとしているというか、墨田区ってどんなまちかといったとき、そのイメージがなかなかポンと湧いてこないと私も最近思っている。

スカイツリー、相撲、北斎、ものづくりのまち、花街とたくさんある。たくさんあるっていいねと外からも言われるが、グローバルで見たときに、インバウンドを含めて海外に向けてすみだって何があるのか、どんなまちかを説明するときに、あれがあって、これがあって…という説明ではなかなか伝わらないのが正直なところ。プロモーションビデオを作ると言ったときに、たくさん映像があるけれど、内容を知っている人が見ればわかるが、知らない人がそれぞれの動画を見たときに、墨田区はこんなまちというところにつながっていかない、と最近良く耳にする。

そう考えたときに、例えば京都ってどんなまちと言ったら、平安京の雅な世界ですとか、八ヶ岳等スキー場があるところは、スキー場があって雪がたくさんある、里山があって自然豊かなまちと、すごくはっきりしている。そういう明確なキーワードが今ないので、外に向けて発信するときに、ストレートにポンと出せるものが今ないので、日本国内に対しても海外に対しても特にイメージがつかないというところが実は観光協会にとって今悩みの種になっている。

以前も江戸以前と江戸以降、すみだの観光コンテンツの中には、江戸以前と言われている梅若丸の話だったり、源頼朝との話があったりとかする。文化観光振興的にできているものは、ほぼ江戸以降だとは思われるが、そういったものが、今の観光振興コンテンツになっていると思っている。

であれば、明確に「江戸のまち」という形のイメージとして、墨田区をしっかりと打ち出していくのか、風景はないけれども、それを味わえるまちというふうにしていくのかということも実はすごく悩みとしてある。

片やそこに住んでいる人たちの気質、人それぞれ感じ方は違うと思うが、私は多分関東大震災と東京大空襲という大きな震災と戦災を経験したまちだからこそ、防災に対する心構えや、区民がみんな一致団結してやっていくというようなまちに対する想いとか、その居住に対する想いというものはそこから来ているのではないかなと思っていて、それが江戸文化の脈々としたものと組み合わせさせてすみだという独特な下町の文化というものが根付いているのではないかなと思っている。そこが上手く外に出てないというか、それをどのように出していけば良いのだろうかということを最近考えている。

オーバーツーリズムの話があった。実際に民泊やゲストハウスにおいては、民泊に関しては新宿区に次いで、東京都内で 2 番目に多い。ゲストハウスやホテルに関しては 3 番目に多いと言われていて、条例もすごく緩やかという中で、たくさんホテル宿泊施設ができている。実はオーバーツーリズム対策として、観光協会が取り組みをしている中で、住民アンケートをとらせていただいた。まだ 250 件程の回答なのですべてではないが、その中で大きく出ている結果として、外国人へのイメージというものを取らせていただいた。アンケートの中で、複数回答だが、外国人観光客に対しては、すみだを楽しんでほしいという声が一番多くて約 50%、その次にマナーを守ってほしいというのが約 44%、来てくれて嬉しいというのが約 43%位で、どちらかというと、観光客が来ることに對してとても肯定的な意見が多い。外国人のマナーが気に良いか悪いか、気になるかということを聞いたときに、約 52%

の方が気にならないと答えている。ただ、墨田区への苦情としては、年間かなり多くの苦情が来ているのも事実で、近くに宿泊施設がある人だけが苦情を言っているのか、そうではないのかというところも確認してみた。近くに宿がありますかと聞いてみたときの結果としては、逆に宿泊施設が近くにいる人の方が、外国人のマナーが悪いと思っている。宿泊施設が近くにある人の方が、マナーが悪いと思っている人が少ないという、ちょっと不思議な傾向が出ている。それがなぜか見てみると、外国人観光客と話をしたことはあるか？という質問もしてみたときに、月に1回以上でも外国人の方、観光客の方と話をしたことがあるという人の方が、外国人のマナーはとても良いと、評価が高い。要は、傍目から見て、外国人のマナーが悪いのではないかと、人の意見に左右されて、そう思っている方が多く、逆に話をし、コミュニケーションをとっている人ほど外国人はとてもマナーが良いと言っているという結果が出ている。

オーバーツーリズム対策という中で、上から目線でこういうマナーを守ってくださいということだけではなく、やはり住民と観光客がコミュニケーションを取れるようなまちづくり、観光施策というものを積極的にやっていった方が、逆にもしかしたらすみだらしさというものが出てくるのではないのかなと思った。

(佐久間委員)

観光振興というのは、観光だけということではなくて、色んなつながりがあって、文化と観光は非常に連携協力しながらやっているところで、例えばトリフォニーホールがあるが、こちらは墨田区だけではなくて、東京東部の地域の最大拠点で、なおかつ新日本フィルハーモニー交響楽団という5大オーケストラの一つがフランチャイズでやっているという大きな集客施設である。これは区民の方2、3割以外には、よその土地のところから墨田区に来ていただいているという、訪れたいまちという、まさにその通りで、主催事業のほか、貸館事業もやっており、毎年年間20万人くらい集客する。それと先程言った北斎美術館については、年間16万人くらい集客する。こんなに公立施設でお客様を呼べる施設は上野文化会館とかはあるが、他の23区でもそうそう無いと思う。来ていただいて、なおかつ観光するだけでなく、周辺の経済波及効果もあり、統計的には、公演に来場された方の6割位が、飲食や買い物もしてくれているというアンケート調査もある。

そういう意味では、観光には、地域に魅力があって、目的があって来るわけだが、音楽ホールや北斎美術館、スカイツリーなど、その目的だけでなく、例えば北斎美術館であれば、観光協会さんのプロモーションカーに来ていただいたりとか、色々な連携をする中で、さらに相乗効果で、より一層お客様を呼べるということにもつながるのかと思う。それがお客様と接する中で、森山委員おっしゃったように、外国人の人が必ずしもマナーが悪いということではなくて、コミュニケーションをすることで、より良い親しみが湧くというか、わかり合えるということにもつながるんだと思うし、それだけ人が来てくれるというのは地域の誇りにもなる。魅力的な存在であるということ磨き続けなければいけないし、地域の活性化にもなってくるので、観光というのは、地域の魅力づくりをより高めるとい意味と活性化につながっていくのではと思っている。

(島田委員)

ひがしんアリーナには大きな大会がどんどん来ている。今度 12 月にはスポーツチャンバラの世界大会がある。世界中の人が集まる大会や全国大会とかが来ている中で、墨田区に来たら色々と観光すると思っているが、どういうふうにその人たちにアピールをしていくのか、私はよくわからないので、もっとアピールをした方がよいのではないかなと思う。

墨田区に住んでいて墨田区のことを知らない子どもたちの中でも、まだ 1 回も北斎美術館やトリフォニーホールに行ったことない子たちもいる。すみだの子どもたちは小学 5、6 年生になったら必ずトリフォニーホールに行けるという特典があるが、その後は行くのかも気になる。

ひがしんアリーナは南部にあるが、総合運動場は足立区に近いので、そっちの方でもすごく良い大会があってパラリンピックの選手とかも来ているけれども、やはり南部の人たちからすると交通の便が良くないというところで、この運動場を知らない人は多いんじゃないかなと思う。

墨田区には観光資源がいっぱいあって、ウォークラリーとかもあるよと言うと、結構来る。墨田区に来た人が、もう 1 回来たいとなるために、それをどういうふうに情報発信していけば良いか。それから先日すみだまつりにも出展したが、もっと小学生や中学生、高校生が集まってくると思っていたが、その日は他のところで色々なイベントがあって、別のイベントでサッカー選手が来ていたから行けなかったと言われた。すみだまつりは、墨田区全部のお祭りだと思っていたけれども、そこにイベントを他が当ててしまったら、こっちの集客が無くなるんじゃないかなとか、そういったつながり、発信も大切なんじゃないかなと思う。先日 JAZZ フェスがあって結構な参加者が来ていて、お祭り騒ぎをしていたが、私はひがしんアリーナで、障害者スポレク、障害者のためのスポーツをやっていたが、あんまり来なかった。

どのようにして、一本化してワーツと盛り上げていったらいいのかということを考えていたところである。

(相澤委員)

私はプライベートでお城巡りをしている。他の人が行かないようなまちにもよく行ったりするが、観光に関して感じることは、やっぱり歓迎してもらうこと、まち全体に歓迎してもらうという雰囲気だったり、人だったり。観光資源はあったとしても歓迎してもらってない雰囲気だとまた来たいとは思わないと感じる。墨田区は皆さんおっしゃるように観光資源はたくさんあるので、ハードの面というよりもソフトというか、私達区民がどういうふうに訪れる人を歓迎していけるかが、これから重要になってくると思う。

ただ、全ての人を歓迎するというものでもないとは思っていて、黙っていてもスカイツリーもあって相撲もあって人は来るので、来るもの拒まずではないのかなというふうには感じている。

写真を持ってきたが、ある民泊は外壁が塗り替えられていて、紫色になってしまっている。泊まりに来ている人が何か迷惑行為をしているわけではないが、見え方として、景観として、これはそのままでいいのか。なので、来るもの拒まずでいい

のかどうかについては、ちょっと疑問を持っている。

もちろん歓迎するというポジティブな面から言うと、まちが綺麗かどうかとか、移動がしやすいかどうかになってきて、移動もバスがあったりするとは思いますが、私は徒歩で両国とかまで行ってしまうが、徒歩で感じるのは自転車のマナーが悪いこと。車がそんな危険だとは思わないが、自転車は地元民のマナーの問題であって、また訪れたいと思うところにつながらない可能性があると感じている。

(阿部委員)

基本構想検討シートの政策 120 番について、産業観光部ができて、観光協会ができて、スカイツリーが開業して、まさにここ 17、8 年のところで大きく変わってきている。観光協会がスタートするときから一貫して今も「本物が生きる街」を大きなテーマとしているが、あえて言葉を選ばず言うと、今更観光をやるからといって、突然変なものを作ったりはしない方が良い。シビックプライドにも通じるが、価値あるものが価値あるものとして、住んでいる私達が十分認識をしていない部分で、観光コンテンツになりうるものについては掘り起こし、磨き上げ、繋ぎ合わせをして、発信・共有することを最初の頃からやっていた。結果、ここは重要だと思っているが、当初「本物が生きる街」を言い始めたときから、一度は訪れてみたいまち、一度訪れたら何度か訪れてみたいまち、最終的にいつか住みたい憧れのまちを作るとというのが、観光協会の当初の目的だった。最終的に住んでみたくないようなまちになってしまうと、観光をやった意味がないというところが大きなポイントだと思う。

なので、オーバーツーリズムや先程話があった景観がおかしくなりつつあるようなところもあるかもしれないが、最終的には長年住んでいる方々、いつかは住んでみたい憧れのまちだと思って、何度か訪れた後に住み始めた方々が、住みづらいような墨田区になるのであれば、観光なんかやらない方が良い。ここは明確にしておかないといけないのではないかな。住みにくくなってしまうような現象が起きる場合には、そこはしっかりコントロールすることが重要で、観光振興の名の下に、いけいけどんどんで何でもやってしまうことにならないようにするのは、観光振興において重要だろうと思う。

元々、門前にお店がずらっと並んで、銘品名店的なお団子だったり桜餅だったり土産物売っているような商業のまちではそもそもないので、商業中心での観光というのはやはり無理があって、なので、ものづくりでさえ本物として、観光コンテンツになるよねと、それが今に一部つながっている。北斎にしてもそうであり、やはりテーマは「本物」で「フェイクはやらない」ということが、ものすごく重要だろうと思う。

もう一つは、これも以前皆さん触れられていたが、外から来るお客様からすると行政の境界はどうでもよくて、広域でもってどれだけちゃんと連携してできるかが大事。舟運をやるにしても、台東区や江東区、中央区、特に日本橋の皆さんとはちゃんと連携ができないと広域観光にならない。せっかくの魅力が魅力として発信、繋ぎ合わさらない。観光協会で忠臣蔵ゆかりのまち歩きをやっても江東区に入った瞬間に、ここから私達の縄張りじゃありませんみたいなことにならないように、行政のバウンドリーを大きく超えて、民間同士でも、行政も柔軟に対応しながら、観

光の地図を作って墨田区から外れたところをグレーにしちゃうみたいなことを絶対にしないようにしないといけない。広域でもってちゃんと考えることが墨田区の観光振興でとても重要だろうと改めて思う。

以上だが、先程相澤委員がおっしゃられた景観にそぐわない色に外壁を塗ったりするのは景観条例で全く対応できないのか。

(事務局)

景観に対しては一定のルールを設けて、新築については適用があると思うし、屋外広告については登録制になっている。

所有建物の壁を塗り替えるだけとか、リノベーションとかでどこまで制限がされているかは、申し訳ないが確認してみないとはっきりお答えができない。

(佐久間委員)

報道であった様図かずおさんの奇抜な色の家、やはりまちに住む人たちはすごく不快感があるってということで裁判にもなった。

(加藤部会長)

民泊やる方はとりあえず来てもらえば良いと、別に墨田区に観光に行ってもらふ必要はなくて、ただ単にそこに来てもらうために、目立つようにしとけばいいというような商業主義が出てしまうのではないか。

(佐久間委員)

先程話のあった、住みにくくなるというか、住みたくなくなるというところで悪影響があるので、何らかの規制でコントロールは必要ではないか。

(森山委員)

苦情の中の一つに、民泊の看板が出てない施設も結構多くて、例えば違う家に入ってしまうとか、特に墨田区の場合、狭い建物のところに民泊が多々あって建物がわかりづらい。しかも同じ住所表記の建物がいっぱいあったりする中で、この色ですとした方がわかりやすいので、色を変えたという可能性もゼロではないと思う。

(老田委員)

観光の話の中で皆さん観光資源がいっぱいあるとおっしゃるが、現物はほとんどない。戦争や地震で焼けてしまっていて色んな現物がない。この間京都に行ったが、京都は思いっきり現物がある。そこでお寺を見に行くとか、まちにしても町屋みたいなものがしっかりとあったりするわけで現物がある。

でも墨田区は、ここで勝海舟が生まれましたというものはあるけれども、勝海舟の家があるわけでもないし、石碑があるだけで、例えば吉良邸にしても、吉良邸があった場所を吉良邸っぽい公園にしたというふうになっている。あったという話を観光の目的にしていけないといけない。

というふうにそれはモノがあったことを目的にした観光というのもそうだし、コトを目的とした観光というものもあるだろうが、あったというその話を対象物にす

る。

この話って実はテーマパークがそう。なので、テーマパークのやり方というのは一つ一つの現物がなくなっている、すみだにおいては、観光の方法論としてアリだなと思っている。テーマパークへ行くと、お迎えしてくれるキャストの人たちがいて歓迎してくれると嬉しいというのは、やはり住民がキャストとして、振舞うということができるようになってくるとそうだと思うし、そこでそれなりの器の整備ができていないと、今の秋葉原みたいに、駅前に100人近い外国人が座り込んでいたりという有様になってしまうので、やはりそういう受け皿としての整備というのも並行してやっていく必要がある。

ただ、やはりベッドタウン化しているところは問題で、向島の花街なんかも、確かに料亭はいくつもあるけれど、実際にはポツポツあって、間にはほとんどマンションや住宅があるという様に、どうやって花街の風情のある景観をつくるのかという話になると相当難しい。実際に例えば京都の先斗町とかに行くと、やはりそれなりのしつらえのところがあって、その中にひとひねり、もう2ひねりもした店が入ってくる。そういう器がしっかりあるところだと、ただぼんやりやるわけにもいかないで、しっかりしたひねりが入ってきて、それがまた評判を呼んで人を集めてくるみたいな展開になる。やはりまちづくり的な形は、観光の上では絶対必要な話だと思うので、そこでさっき言ったようなテーマパークを参考にするようなアプローチでまちづくりをするというのはありかなと思っている。

(井上委員)

観光については墨田区の基本構想の一番上のところで出てきているので、観光をなぜ墨田区がやるのかということから、区民に伝わらなきゃいけないと考えている。観光って区民の方からすると、一番遠い産業というか、例えば医療・病院、学校・教育、買い物・商業とかは比較的住んでいる方からすると身近なもので関心が高い分野だが、観光って別になくてもよい。例えば世田谷区は観光課がないとか、そういう中でなぜ観光をやるのかということが、区民の方に伝わらないと先程の相澤委員のお話の通り、区民の方が歓迎しないかなと思う。その中で観光業は商業とかと違って様々な分野、交通事業者だったり、宿泊事業者だったり、先程佐久間委員から話があった飲食してくれたりとか、その下にいろんな事業者がぶら下がっている。幅広い産業が観光業に力を入れることによって、様々な分野が関わる。その結果、最終的に墨田区の税収が上がって、それで上がった税収、観光業で儲けたお金がしっかりと学校ができるとか病院に回すっていうのを区民の方が理解しないと、なかなか反対の層も出てしまうのではないかな。私は、観光業は非常に魅力的な産業だと思っていて、先程申し上げた、様々な分野が関わっている。それがしっかり他の分野に墨田区の税収として使われるっていうのが、区民の方にわかっていたかかないと、先程の民泊の話もそうだし、問題が起きる。また先程阿部委員がおっしゃられた最終的には墨田区に住んでくれれば、住民税も入ってくるし、そういったまちの観光というのをやっていく。観光資源の磨き上げ等については、観光協会さんがしっかり考えてやってくれることだと思っているが、本当に魅力的な資源がたくさんあるなというふうに思っている。

そこをどうやって区内の文化、スポーツそういったところの分野とも連携できる

のか、ある意味、唯一無二の産業と思っている。スカイツリーができて、そうやって観光に力を入れる、観光業で儲けるっていうところも打ち出せるようになってきているので、その辺をうまくシティブロモーションにも関わってくるが、最終的に区民の方が、歓迎しないとやっぱ来てくれないというのは私も思っているんで、区民の方に墨田区が観光に力を入れると、こういう良いことがあるんだっていうのをわかってもらうような表現を、この基本構想に入れないといけないと思う。

（加藤委員）

一通り委員の皆様方からご意見いただいたが、さらに何か付け加えるようなことがあるか。

（森山委員）

補足的な形でお話を。皆さんのお話でいくつかあるとすれば、文化ではトリフォニーホールや北斎も私が以前から話しているとおり、全て江戸につながっていく。音楽のまちすみだも元を正せば国技館にたどり着いて、国技館から回向院につながっていくというようなストーリーでいくと、そういうところにつながってくると思う。

島田委員の方からお話があったたくさんの人たちが、ひがしんアリーナや総合運動場の方にもいらしている。実は国技館や国際ファッションセンターなど、MICEの会場としてもたくさんいらしているという中で、ようやく墨田区の方でMICEの雑誌ができた。デジタルブックの方がメインとして使っていく形になるが、そういうところに来られている方たちに向けたエクスカーショナルなものをこれからさらに強化していくために、来年度からプロモーションをしっかりとやっていこうという取り組みを今始めている。また、イベントが多すぎて、同じ日に集中することについては、それは私もすごく感じている。区の14階の部署を中心に月に1回イベントとか諸々の取組の共有会をやっていて、年間のイベントスケジュールの調整をやってはいるが、同じ日にやはりすごく集中する。身体1つでは足りないくらい、あちこち行かなくてはいけないということが起こるが、墨田区としてどれがメインのイベントなのか、たくさんあることが良いことなのか、それとも大きなイベントをみんなで力を上げて創っていくことが良いことなのかということも含めて、イベントを集約、整理していく時期に実は来ていると思う。コロナ禍明けでイベントが増え、戻ってきたことは良いが、同じ日に集中することもできれば避けた方が良いか、情報の発信の仕方をもう少し丁寧にしていかなくてはいけないと思っている。

相澤委員がおっしゃった、歓迎してもらっている感はすごく必要だという中で、コミュニケーション、住民の交流会やコミュニケーションというものをもっとやっていかなくてはいけないと思っている。

それから自転車のマナーの話。実はコロナの時も、ゲストハウスにお客さんが来ていた。来ていた方は日本人。実は日本人の方がマナーが悪いという声は、ゲストハウスや民泊の近隣の住民から出ている。今回宿泊事業者との交流会で意見交換会を行ったが、宿泊事業者の方たちは、日本人が泊まりに来ないために、2泊以上とか3泊以上という制限を設けている。何故かというと日本人の方が畳は煙草で焦がす、障子は破る、物は持っていくと、実はマナーが悪い。だから、あえて日本人が

泊まらないように複数日設定をしているという話が結構ゲストハウス、民泊系から出てきた。なので、外国人だから駄目だということではなく、日本人も含めた形で、マナー啓発とかそういうことをしていかななくてはいけないという、ちょっと寂しい話が出ている。

それから広域連携に関しては、今EAST TOKYOという形で、墨田区、台東区、江東区、スカイツリーの連携でプロモーションに一緒に行くとか、可能な限り、例えば勝海舟で言えば、大田区、港区と連携する、忠臣蔵も泉岳寺まで行くところの地域と連携をするという形で、墨田区に来てくださいと言っても墨田区ってどことなるので、東京の下町、東京の東側浅草も含めた形でこっちに来てくださいという形のプロモーションをやっていかないと、日本国内だけではなく、世界に対してすみだというキーワードだけではなかなか伝わらないところがあるので、そういうプロモーションの仕方に、ここ10年ぐらい全部変えてきている。

テーマパークに関しては、これは私も今年1年ずっとこのテーマパーク構想の話を見せていただいていた、点があるからこそ点だけで売っていくのではなく、面としてすみだの魅力を出していくという形に切り替えた方が良さだろうというふうに思っている。風情の創出というところでは、観光のまちづくりをしていくためにやはり景観とセットで考えていかないとなかなか難しい。ただ、これはすごく厳しい言い方かもしれないが、行政がどうしても縦割り、都市計画部、都市整備部、観光、文化、みんな違うセクション。このセクションのところで観光だけではなく、まちづくりとして、すみだのまちづくりをどうするかというところを真剣に考えてくれるような組織体なり、協議会なりそういったものができることが望ましいと思っている。

(加藤委員)

他はいかがか。

よろしければもう1つテーマがあるのでそれに絡めてまたお話をいただきたい。

2つ目のテーマはシティプロモーション。先程申し上げたが、なかなかこの言葉をどうとらえるか、観光とどう切り分けていくのか、このシティプロモーションについて、色々な地域を見ると、基本構想の具体的な手法というような形でほぼ基本構想とニアリーイコールみたいなところもある。なかなか定義が難しいところはあるが、お1人ずつご意見を伺いたい。

(相澤委員)

プロモーションをするためには、やはり区の魅力を自分たちで知らなきゃいけないというのが一番かなと思っていて、以前議論していた地産地商というところに結局つながるのかなと思う。先程島田委員の方からも北斎美術館に行ったことがないとか、恐らく区民の中にはスカイツリーも行ったことがない方がたくさんいらっしゃると思うし、観光資源だけではなくてこのお店で食事をしたことがない、和菓子を買ったことがないというのはいくらでもあると思うので、まずは、区民がどれだけ地域のことを知って、地域のものを使ってみたり買ってみたりするというのが重要かなと思う。そこに結局つながるのが、地域を回らなければ、その魅力とかに気づくのは難しいと思うので、例えばそこも結局まちづくりにもつながってくると思う

が、墨田区のどこかに行きたいと思っても、すみまるくんバスは片方向にしか走っていないくて、例えば向島周辺から、両国まで行くのに隅田川から船が出てれば良いなとか、まちづくりと含めて魅力をどう区民に知ってもらうか、知ってもらった後にどう発信してもらうかということになると感じている。

（島田委員）

すごく難しい。私の意見になってしまうが、このコンセプト BOOK を読んだが、そもそも私はすみだで生まれて、すみだで育って、すみだにずっといる人間なので、墨田区が大好きで、すみだから離れたくないと思っている1人。すみだから出て行かない私の同級生もいたりして、なんでそうなのかと思ったらやはり人情、下町情緒。今は下町情緒が残っていたになっちゃうかもしれないが、新旧入り混じってそういうのが段々と失われつつもあるのかなとか、昔は本当に隣のおばちゃんにちょっと洗濯物入れといてとかあったが、今はもう本当に隣近所の付き合いもなくなってきている。そんな中で、シティプロモーションで私達がつなげていくのは、やっぱり次世代の小学生、中学生、高校生の子どもたちにこのすみだの魅力をどんどん発信していかなくちゃいけないと思っている。次世代を担う子どもたちがすみだの魅力をどう感じるかと考えると、色んなすみだの資源を見せてあげたいし、触れさせてあげたい。それから先程オーバーツーリズムの話、昼間は押上とか曳舟は外国人でいっぱいだという話も聞くが、子どもたちも外国語を学校で早い段階から学んでいるので、子どもたちとコミュニケーションを取らせたい。学校だけじゃなくてもっと外に出したいと思って、この間も社会見学で鎌倉に行ったときに、鎌倉大仏にもいっぱい外国人がいて、事前に外国人の方と話をさせるよと言っていたので、何人かがお話ししたら、すごい話に乗ってくれた。スカイツリーとかにもいっぱい外国人がいるので、話しかけたり、そういった形で仕掛けてあげなくちゃいけないのかなと思った。その仕掛け人になるのは、私達のようにちょっとでもすみだを愛している人間が関わってあげられると良いと思っている。それがシティプロモーションにつながるかどうかかわかんないが、そんな感じでちょっとつなげるためには、私達の仕掛けと、それから子どもたちの食いつきが必要かなと思った。

（佐久間委員）

シティプロモーションということでまちの魅力を区民の人、あるいは区外の人にもすみだって素晴らしいということを思ってもらえる、良い印象を持ってもらえるためには、まず知ってもらわなくちゃいけないということは皆さんがおっしゃる通りだと思う。まず、足元というか、区民の中でも子どもたちに対しては、区立学校全小中学校に対して、音楽鑑賞教室は必ず小学校5、6年生、中学校2年生でやっている。トリフォニーホールで素晴らしい生の本格的なプロのオーケストラを聞く。あるいは高齢者、あるいは障害者の、なかなか外に出てこれない人のために出張して音楽を聞いていただける、そういうふれあいコンサートのなもの、それから北斎美術館では、偉大な北斎が世界的にも評価されているのはどうしてなのか、というところを出前授業という形でお知らせしている。出前授業で学んだことを書いたものを、北斎美術館にも飾ったりして、保護者の人たちに来てもらおう。そのように、まず区内にこんなに素晴らしいことがあるんだよということをより広めていく活

動は継続的にやっている。これは引き続きやる必要があるし、区の外に対しては、わかりやすく、親しみを持って、行ってみたいなと思えるような、今で言うと SNS、X なり、Facebook なり、そういった情報のコンテンツを使って、外国人の人は必ず SNS を使って情報収集しているので、もし日本に行くなら、北斎美術館に行かなきゃいけないということも根底にあるようだが、こちらからも積極的に、今こんな企画展をやっていると、建物を見に来るだけではしょうがないので、中身で勝負で、魅力的な何をやっているのかを発信する必要がある。美術館の中身について磨き上げる、それは日夜研究していくことが大切で、マンネリではいけないので、そういうことを磨き上げていく。

それから、先程森山委員がお話しされた、江戸文化。これ世界に誇れる部分、浮世絵を中心とした、葛飾北斎の作品というのは全体にアピールできるものだと思うので、こういうものを対外的にも発信していくと、インバウンド対応だけでなく、国内の日本人の方にも是非来てみたいとなるように、攻めていかなければいけない。そのためには、具体的には観光情報の発信機関との連携とか、海外の旅行会社と提携しプレスリリースをしたりとか、ネットで紹介動画を配信したりとか、そういったことに力を入れていかなければいけないと思う。リピーター、すみだのファンを獲得して、1 回来ただけで終わりではなく、何回も訪れてみたいと思っていただけるように、飽きられてもいけないので、日々精進、更新していく取組をしていかなければいけないと思う。

(森山委員)

実はコロナ前から観光客アンケートを取っていて、その中で、どこから情報を取りましたかという問いでは、例えば Google、トリップアドバイザーなど、色々な口コミサイトがある中で、友人知人からの口コミが圧倒的に多い。そう考えたときに、すみだの情報を外に向けて発信するには、すみだに住んでいる人、すみだに関わる人たちが、すみだって良いまちだよということを言ってくれることが、実は 1 番の情報の発信だと私は、このアンケートの結果からずっと思っている。今年の 2 月に「すみだファン CLUB」というのを観光協会として立ち上げた。2 月から集めて大した口コミもせず何とか 98 名まで集まって、先日第 1 回目の交流会を行った。その交流会の情報を Facebook の方で上げたところ、10 日ぐらいの間に 14 人の方に新規で申し込みいただき今年目標の 100 人を超えた。これは何のためにやるかと言ったら、1 つはすみだが好きの輪を広げること。すみだが好きだということ、日常の中でそれぞれの人たちが自分の Facebook やインスタ等で発信して、友達に伝えてもらうことが 1 つで、すみだで起こっている色んなイベント、今度のコーヒーフェスもそうだし、ボランティアみたいなことに参加しないかという情報も発信するし、募集も一緒にする。実際に交流会に来られた方は 24 名だったが、すみだのことについて簡単に 40 分程話したが、皆さんのお話の中で、すみだのことを知らない、すみだが好きなんだけど、長く住んでいるせいかよく知らない、だから勉強に来たという話をいただいた。募集をするときに、すみだのどこが好きかというのを書いてもらった。隅田川や北斎、相撲、スカイツリーといっぱい出てきたが、一番多いキーワードは「人」。人情とか、人の優しさとか、人とのつながりとか人という言葉がキーワードとして圧倒的に多かった。そういうものを求めて皆さんす

みだに住んでらっしゃる。登録者の約4割の方が実は墨田区以外の方たちで、横浜市の方も交流会に来られた。やはりすみだが好きということがすごく大事なことで、すみだのどこが好きかというのは、人それぞれ違うが、まずはやはりすみだのことを知ることから、すみだが好きになっていくんだろうなということで、輪を広げていくという活動を観光協会としてはしている。

もう1つ、オーバーツーリズム対策の1つで、旅を楽しむという形のスポーツマンシップの旅行版、ツーリストシップというものを広げていくための旅先クイズ会というのを、そよ風広場や両国で、定例的に月に1、2回やらせていただいているが、外国人の方はやっぱり多い。ただ、区民も3割クイズに参加してくれている。そこで、知らなかった、初めて知った、勉強になったという声が圧倒的に多い。ここに本当は子どもたちに参加してもらいたい。実は区外の中学校の子たちが手伝いに来てくれているが、墨田区民はほとんどいない。逆に外の人たちが話を聞いて、ぜひ参加して手伝いたいと来られる方が多い。まだまだ区内の学校とか、そういうところへの発信力が弱いのかかもしれないが、区のことを観光客に伝える、墨田区ってこんなまちだよということを伝えるためのクイズで、合わせてマナーを伝えている。タバコやごみはポイ捨てしないで、路上で吸わないでとか、できれば車で来ないで電車で来てねとかを伝えていくことをしている。

観光協会もまちゼミをやっているが、観光ガイドの会の方たちにはすみだの歴史的な忠臣蔵だったり、七福神についてとか話をしてもらってはいるが、私のコンテンツは喫茶店とカフェ。墨田区になんでたくさんの喫茶店やカフェがあるのかという話をして、ぜひ墨田区のチェーン店ではない個人店の喫茶店に行っってねという話をして盛り上がっていただいている。まずは区民の人たちにセミナーのことをもっと知ってもらい、いろいろなものに参加してもらいことは良いことだと思う。それがシティプロモーション、シビックプライドにつながっていくんだろうなと思う。

(井上委員)

墨田区に住んでほしい、観光に来てほしいとか、要は墨田区良いとこですよ、プロモーションをすることを考えるときに、私は足立区民だが、墨田区が良いなと思っているのは、区の面積がそんなに広くないので、わかりやすいというのがある。足立区いいねと言っても、足立区が広すぎて、なかなか足立区の良さを一つに知る機会というのが、どうしても面積という物理的な問題で難しいと思っている。そういう意味では墨田区は、区役所から自転車で15分ぐらい行けば、ほとんど区の端っこまで行けてしまう。そんな中でやはりまずは区民の方が、墨田区って良いよねと言ってもらえないといけない。そのためには、まず区民の方が知る機会がないといけない。行政としては知れる環境、移動が大変だとか、両国に行くのが大変だからそこには行かないとかならないよう、区民の方がまず知れる環境をどんどん作っていくことが必要だと思う。すみだの良いところとかは、これだけ情報があって多様化しているので、皆さんバラバラだと思う。私みたいにお酒飲むのが好きで、こういうお店があるよ、こういう文化がすみだにはあるよとか、皆さんバラバラなのでいかにそれを伝え合えるかが大事だと思う。

先程の島田委員のお話の通り、大人が子どもに伝えていくこと、これも重要だと聞いていて思った。シティプロモーションはこの30分や1時間話して決めるもの

ではないと、そもそも思っているが、今、各委員の皆さんのお話聞くと大体同じような方向、区民の方に知ってもら、それを区民の方が区民の言葉で伝えられる、それを区民の方が知れるような情報発信なり環境整備を行政としてやっていく。こういうことが必要だと思う。それが個人的には墨田区というのは、面積的に非常にやりやすい行政区かなと思っているので、このシティプロモーションというのをどんどん広げて、区民の方だけでなく、私みたいに区外の方でも、墨田区にはこういう良いところがあるよ、イベントもこういうのがあるよと言えるそういう場作り、情報発信、ここの整備をこれからしていくべきだと思う。

(老田委員)

先程テーマパークという話をした。テーマパークの代表格はディズニーランドだったりするが、ディズニーってどういうふうに売られているのかなと考えたら、テレビ等でCMがやたらと流れているわけでもない。でも、その魅力が何となく伝わってきていて、その理由は恐らく夢の国ということに対する徹底具合が半端ではないので、知らないうちにディズニーマニアみたいなものが登場してきて、その人たちがインフルエンサーになって、どんどんどんどん口コミ的に展開をしていって、何となくぼやっとしていて、幻想じみたものが、現地へ行くと確かめられる。

例えばすみだマニアみたいな人、完全に森山委員はすみだマニアだと思うが、そういう人が色々なところで発言をしたり、表現をしてもらうことで伝わっていくという、この繰り返しだと思う。

そうすると、その元のところ、夢の国の徹底具合みたいな話になると、すみだらしさの徹底具合という話になってくるが、それがいかにしっかりできるかということところがキーになっていくんだと思う。また逆にまちはどんどん薄まってしまっているので、それに気をつけ、認識しながら、ここに徹底具合を上げていくということをしていく必要があるかなと感じている。

(阿部委員)

効果的なシティプロモーションについてとなっているが、何のためにシティプロモーションをするのかという整理は結構重要だと思う。大きなテーマで上がっている、暮らし続けたいまち、働き続けたいまち、訪れたいまち、このすみだの夢の定義のためにも、墨田区を知ってもらいたい。知ってもらうためには、まずは、そこで住んでいる人たち、働いている人たちがシビックプライドを持っていたら、心地よく安全にプライド高く暮らすことができるまちとして、当事者になれるべく多く、いろんな伝手を使って、発信をしてもらう、情報共有をしてもらうことが大切だと思う。一方で、シティプロモーションと観光とが必ずしもリンクしないかもしれないと思うのは、コロナの初期の頃、やたらワクチンを打つのが早くて、医療連携も進んで、多くの区民が外の人たちから墨田区ってワクチン早く打ってくれていいよねと言われて、自分は何もしてないのにすごいでしょみたいなことを言っていて、あのとき、やたらとシビックプライドが上がった。シティプロモーションに関して言うと、江戸文化とか、観光振興で話していた観光コンテンツについてもシティプロモーションだが、今の墨田区の様子、あるいはこうなるかもしれないという将来に向かったワクワク感みたいなものがうまく発信ができると、シティプロモ-

ションになるんだろうなと思う。ベースになるのは、こんなところに住みたい人なんかいないよ、あるいはこんな所に来るはずないじゃんと言っている人が1人でもいるところには人は来ないので、今住んでいる人、長く住んでいる人、最近住み始めた人も、全ての墨田区に今ご縁があって生活をされている人、あるいは働いている人たちが、プライド高く墨田区を誇りに思っただけのようにするためにはどうしたら良いかということが、シティプロモーションの1番のポイントになるのだと思う。

ワクチン対応のときにあれだけ褒められると、おそらく役所のご担当の方々も、あるいは医療機関、看護師さん、薬局、大変な思いをされてもあれだけ徹底的にいいねと言われると、当然やる気になる。もう少しやるかという気になって、やはりプラスのスパイラルでうまくはまっていくことが、色んなきっかけで当然あるんだろうなと思う。

老田さんがおっしゃられたテーマパークキャストは、区民全員がキャストになって、結構重要なフレーズ、言い回しだと思うが、北斎に関連して小布施町にお伺したり、比較的小さなまちということもあるが、本当にそこに住んでいる人たちが自分の住んでいるところにプライドを持って、来てくれた外からの人たちにようこそ来てくれましたというのが、パブリックエリアだけでなく、生活エリアの中、プライベートエリアの中でもそれを感じることができるよう非常に良い雰囲気を出している。それを墨田区全域でもってできるかというのはなかなか難しいテーマかもしれないが、でも目標にしたら良いのかではないかと改めて思う。

(加藤委員)

一つだけいつも気になっているのだが、シビックプライドとかシティプロモーションって確かに良い言葉ではあるものの、シビックプライドってどこまで通用する言葉なのかというのは、少し気になっていて、専門家の方々にとってみれば当たり前なのかもしれないけど、あんまりそういう言葉で語って良いのかというはちょっと思う。シティプロモーションも果たして受け取る側がどういうふうにして受け取るのかがちょっとよくわからない気もするので、言葉も少しお考えいただくのが良いのかなと思っている。

一通りシティプロモーションに関してご意見をいただいたが、せっかくここまで盛り上がったので、何かあれば付け加えていただけるとありがたい。

(井上委員)

観光のところだが、観光ってこれから多分日本の中でも取り合いになってくると思う。そもそも少子化になってきて、どこでもみんな稼げなくなってくる中で、何とか稼がなきゃいけない、特に地方は産業とかがどんどんなくなっている中で、金を稼がなきゃいけないとなると、やはり観光業、いかに人を呼んでそこで金を使わせるか、そこで得た収入を回していくかというふうになってくるはずなので、これから今はスカイツリーがあるとか、相撲がある、北斎があるとかで、魅力ある所が沢山あるが、地方はこれからもっと必死になってくるので、奪い合いに負けないようにしていかないと、何で観光やるのとなりかねないので、本当に稼いでいくため

には観光をしっかりやっていかなきゃいけないとずっと思っている。

（森山委員）

加えて言うと、官公庁の言っていることなので、本当かどうか分からないが、産業構造の中で、自動車産業に次いで観光産業は裾野が広くて、売り上げが高い産業ではある。鉄道、宿泊事業者、お土産、飲食、全てを広げていくとやはり観光産業が人材確保も含めて広い産業だということを多分、普通の区民の方々にはあまり知られていないことなのではないか。今観光庁は1人のお客さんが来ると1人当たり、外国人の方に25万円使わせるという話がある。25万円には物を買う他、体験アクティビティや移動、宿泊、あらゆることが含まれる。1人の人が25万円使うのは日本人ではなかなか難しい。やはり観光というのは、これからもっと日本全国各地が力を入れてくると、その中で差別化していく、墨田区としてどういう観光振興を進めていくのかということをしっかり考えていかななくてはいけない。

変な話、東京を中心とした関東圏、千葉や茨城、栃木、群馬の観光協会の人たちは東京と組みたいとよく言っている。それは泊まらなくてもいい日帰りでもいいから来てほしいと、そのためには情報を自分たちだけで発信するのは、ものすごく難しいので、一緒に組んで、日帰りでも来てもらいたい。だから東京と組む。東京の宿がある地域と組むということをすごく切に熱望されている。なので、墨田区はハブになる。墨田区から千葉へ、群馬へ、栃木に行ってもらって帰ってきてもらう。そういう場所にすみだがなればいいなという妄想をしている。

（阿部委員）

妄想ついでに言うと、井上さんがおっしゃった移動人口による経済効果は、比較的短中期の手前のところでは、当然観光の一つの効果で、重要だと思う。特に地方で人口減少が進んでいるようなところに関して言うと、ものすごく重要だと思うが、長期だと、妄想的の一つの目標としては、まさに初めて自分来ましたと。いろんな良い思い出作って、良い経験して、美味しいもの食べて、来年また来たい、あるいはお金を貯めて3年後にまた来たいと。3、4回来ているうちに本当に日本の魅力を理解してくれた人が移住してくれるのが一番いいと思う。なので、イメージ政策みたいなのを、労働力を具体的にどうかよりも、墨田区がきっかけで日本を好きになっていただいた方々が、移動人口から定住人口にくらがる位の大きなテーマで、目標を持てるとやりがいがある感じがする。

たくさん人が来てくれてお金を出してもらいたいみたいなのところだけにしてみようより、いつか住んでみたい憧れのまち、墨田区観光協会としては憧れの墨田区となるが、それぞれの自治体で健全な地域間競争をしながら、レベルがどんどん上がりながら東京なり日本全国が、憧れの住みたいエリアになると人口減少ももしかすると止まるのではないかと考えるのも、少なくとも夢としては楽しいのではないかな。

（佐久間委員）

先程ワクチンの話もあったが、当たり前のことだが、そこに住んでいて環境が良いなり、あるいは防災がしっかりしているとか、福祉が充実しているとか、特別な

ことに限らず、そういう日常的な当たり前の土台がしっかりできていて、今住んでいる人たちが、引き続き住み続けたいなと思っているところに愛着があると思う。なおかつ人に自慢できるようなものが何かしらあれば、良いから一度来て見なよと、自ら地域の情報発信できる。そこがプライドとシティプロモーションの発信にもつながる。その根底の部分がゆらゆらしていると、いくら何か一過性の良いイベントがあったとしても、それは一過性のことで忘れられてしまうので、やはり根底の部分こそが一番大切なのかなと思う。当たり前のところ、そこが揺らいでしまうと一番いけないと、原点回帰でそう思う。

(加藤部会長)

最後事務局の方で今までの議論を振り返って印象に残ったことなどがあれば、次回の案内も合わせてお願いしたい。

(事務局)

まず観光の分野では、森山委員から観光協会さんの方でアンケートを取っていた中で、インバウンドの方が増えている中、住民と観光客がコミュニケーションをとれるようなことを意識すれば、お互いの理解も深まるし、すみだらしさというのにもつながるのではないかと思った。また相澤委員からまた訪れたいまちというのは、まち全体で歓迎してくれるまちというお話があった、そこに対して区民や事業者、行政の方で訪れてくる人々を迎える雰囲気がつくっていいかというところもまた重要かと感じた。連携というお話も出てきたが観光と産業、文化などが連携して、地域の魅力をさらに磨き続けるというところで、活性化とか、魅力作りにもつながっていくのではないか、その連携というところでは墨田区だけでなく、広域でしっかりと連携していく必要があるのではないかなというご意見があった。

また、観光に関してなぜ墨田区がやるのかというところについても、しっかりと区民の方に伝わらなければいけないというご意見もあり、そこら辺もしっかりと考えていく必要があると感じた。

シティプロモーションについては、皆さんも見解も結構一致していたかなと思うが、区の魅力をまず自分たちで知らなければいけないというところで、区民の方たちが地域のことを知って、その魅力をいかに発信できるか。子どもたちに対しても、よく知っている大人たちとか、すみだマニアという言葉も出てきたが、そういった人たちが知るきっかけを仕掛けてあげる必要もあるという意見もあった。最後に佐久間委員からあったように、日ごろから区政に対して真摯に取り組むこと、区民からの信頼を得るために、根底の部分をしっかりやっていくことが、結果として区のへの愛着につながり、それがシティプロモーションにもつながっていくので、区としてもしっかりとやっていかなきゃいけないと感じた。

とりとめなくうまくまとめられていないが、改めて議事録を確認したうえで、事務局の方で、本日のキーワードを拾い上げながら、今回のテーマに関する未来予想図を考えて次回お示しさせていただく。

次回については、11月25日月曜日の午後6時半から、区役所13階131会議室での開催となるのでよろしくお願いいたします。

|       |                                                         |
|-------|---------------------------------------------------------|
|       | <p>(加藤部会長)</p> <p>以上をもって第４回の部会を終了させていただく。</p> <p>解散</p> |
| 所 管 課 | 企画経営室政策担当（内線３７２２）                                       |